

短茎小菊 2年目の栽培推進

農業技術振興センター普及部

【普及活動のねらい・対象】

昨年度、県下二つの産地から短茎（草丈45～60cm）小菊が25万本出荷され、卸売市場の高い評価も得られました。

さらなる生産拡大に向け、栽培研究部、各地域農産普及課と連携し省力、多収栽培の技術確立に向けた調査研究に取り組みました。またJAと連携し、新たな市場開拓も行いました。

【普及活動の成果】

調査研究課題での成果

省力化および多収栽培の技術確立に向け、次のような調査研究に取り組みました。

- ・8月咲き黄色品種の3条植、無整枝栽培技術の確立（湖東農産普及課と連携）
- ・ヘッジトリマー（電動バリカン）での定植前摘芯時期の解明。
- ・定植機、ピーンハーベスター・草刈り機による機械収穫の実証展示（東近江農産普及課と連携）
- ・蕾収穫後の人工光による開花促進方法の検証（東近江地域農産普及課と連携）

人工光による開花促進では期待した結果が得られませんでした。その他の課題については農業者に即実践していただける成果を得ることができました。

市場開拓および新規産地への支援

新規生産者を確保するには、新たな市場開拓が重要です。「現状では、まだそこまでの必要がないのでは？」というJAや農業者の意見も聞かれましたが、安土町の花束加工業者および大阪の卸売り市場（全国2位の取扱高）への出荷が始まり、両者から商品性を高く評価いただきました。

JA新旭町には昨年度40名の部会組織が誕生し、今年初めての出荷となりました。JA直売所、地元生花商への販売が好結果となり、部会員がさらに増加しました。

今年度、県下7JAにおいて約50万本の短茎小菊が出荷されました。出荷先全てから、仏花加工に使いやすく、加工時の手間（茎の切断、下葉除去）が省け、ゴミも出ないと大変好評でした。本県が、短茎小菊のオンリーワン産地として認知される日は近づいていると確信しています。



左写真：倒伏防止ネットを使わない、8月咲き3条植、無整枝栽培技術の調査研究

中写真：8月咲きのピーンハーベスターによる一斉収穫の調査研究（栗見新田）

右写真：JA新旭町での育苗技術習得の現地研修会